

## 3章 基本画面の概要



## 3.基本画面の概要

本章では、MTA-01WBの基本画面の構成と機能概要について記します。



MTA-01WBの画面表示例

### 3.1 機能構成

MTA-01WBでは、画面中央(以降、「メインビュー」と表記します。メインビューについては 3.2.1 「メインビュー」を参照してください)に機能ごとの内容を表示します。メインビューに表示される内容の主な機能区分は下表の通りです。

No.	機能	内容
1	Sequence Selection	3GPP TS 26.131、TS 26.132 V5.0.0の内容に沿った13種のテスト項目を選択するための選択リストを表示します。
2	Analyzer Setup	各テスト項目ごとの測定器の基本的なセットアップ(分析フィルタ、アベレーシング回数など)を行うためのリストを表示します。
3	NEXUS Setup	マイクロフォンの感度設定や電源供給、ケーブル長を設定するためのリストを表示します。測定に使用するマイクロフォンはコンディショニングアンプNEXUSに接続されることが前提条件です。
4	Input Channel	測定器の入力チャンネルに関するセットアップ(入力チャンネル、測定系の出力点、重み付けなどの)設定を行うためのリストを表示します。
5	Output Channel	測定器の出力チャンネルに関するセットアップ(出力チャンネル、測定系の入力点、出力レベルなどの)設定を行うためのリストを表示します。
6	Test Signal	測定器から出力する試験信号の種類を選択するためのリストを表示します。
7	Test Terminal	試験端末に関するセットアップ(シリアル番号、タイプ、Wide/Narrowなどの)設定を行うためのリストを表示します。
8	Current Measurement	測定中の特性グラフを表示する分析画面と主なセットアップ内容が表示されるセットアップパネルを表示します。
9	Measurement Record	記録した測定結果の一覧リストとその特性グラフを表示する分析画面を表示します。

MTA-01WBの機能構成

## 3.2 各部の機能と名称

MTA-01WBの基本画面の各部の機能と名称は下図のようになっています。



以下に、各部の機能の概要について記します。

### □ メインビュー

シーケンス選択や接続設定、測定記録一覧、分析画面などの機能ごとの内容を表示します。メインビューの表示は、<表示>メニューあるいは左サイドバーのビューボタンで切り替えることができます。

### □ タイトルバー、メニューバー

タイトルバーは、一般的なWindowsアプリケーションと同様に移動、最大化などの機能を持ちます。メニューバーは、各種の機能をドロップダウンメニューから実行する場合などに使用します。

### □ モードバー

現在測定対象となっている主な内容（試験項目のシーケンス名、試験端末のタイプ、試験信号名など）を表示します。

### □ 左サイドバー

セットアップリストや分析画面などのメインビューの表示内容を切り替えるためのビューボタンを表示します。

### □ 右サイドバー

分析画面に表示する内容を切り替えるための入力チャンネルボタン、分析ボタン、および出力チャンネルインジケータを表示します。

- ツールバー  
よく使用される操作をマウスクリックひとつで行えるようにしたショートカットボタンを表示します。
- オペレーションバー  
測定操作に関わる一連のショートカットボタンおよび通信接続・切断をおこなうPower>ボタンを表示します。
- インフォメーションバー  
通信状態、測定時間、現在の日時を表示します。
- ステータスバー  
マウスカーソル下にある表示内容についての簡易な説明文を表示します。



解説

画面上に表示されるボタンの総称を本書では「ショートカットボタン」と表記します。

### 3.3 メインビュー

シーケンス選択や接続設定、測定記録一覧、分析画面などの機能ごとの内容を表示します。メインビューの表示は、<表示>メニューあるいは左サイドバーのビューボタンで切り替えることができます。以下は、メインビューに表示される画面の表示例です。



Sequence Selection



Analyzer Setup



NEXUS Setup



Input Channel



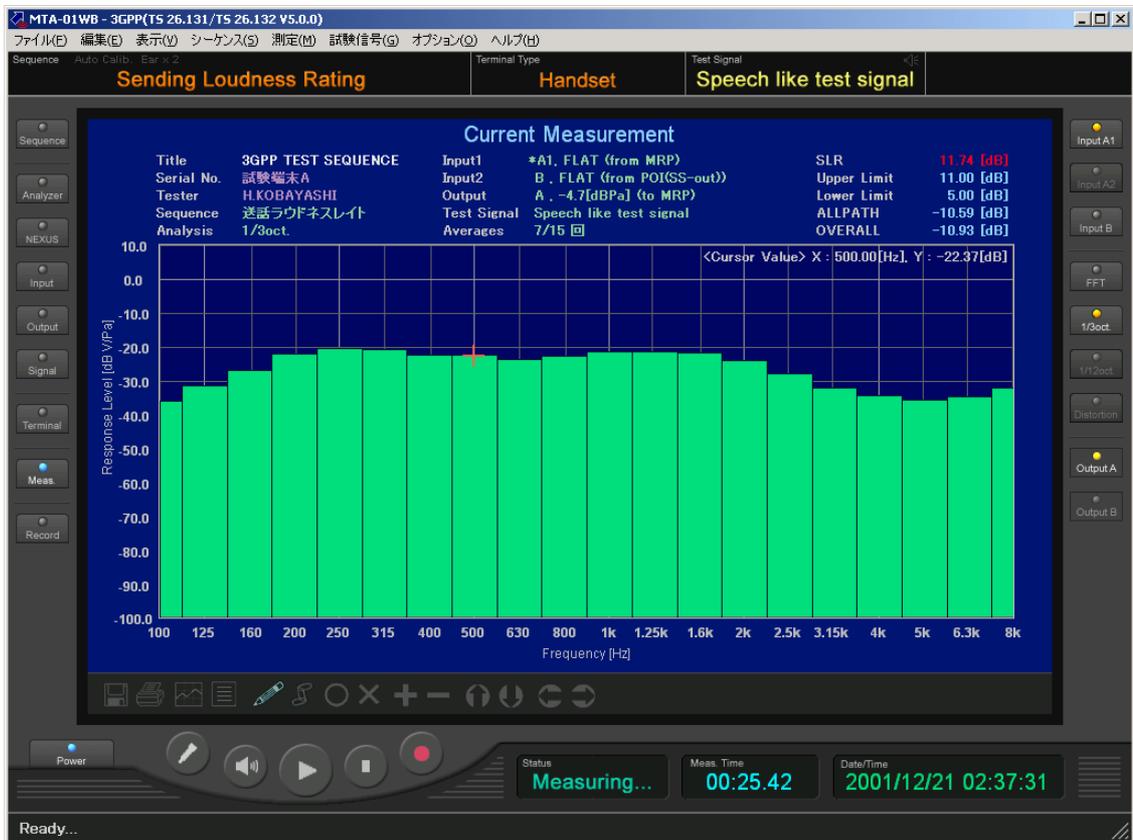
Output Channel



Test Signal



Test Terminal



Current Measurement



Measurement Record (記録一覧リスト)



Measurement Record (記録データの分析画面)

## 3.4 メニューバー

メニューバーは、各操作を行うためのメニューを表示します。メニューバーは、ファイル、編集、表示、シーケンス 測定、試験信号、オプション、ヘルプの8つのメニュー分類にわかれており、それぞれ、次の図表のような分類ごとのドロップダウンメニューを持ちます。以下に、各ドロップダウンメニューについての概要を記します。

### 3.4.1 ファイル(F)

ファイル(F)メニューには、次の図表のような項目があります。

エクスポート(E)	Ctrl+S
印刷(P)	Ctrl+P
▼ オフライン作業(W)	F2
終了(X)	

ファイル(F)メニュー

No.	メニュー	内容
1	エクスポート(E)	記録された測定データをCSVファイル形式でファイルに出力します。
2	印刷(P)	記録した測定データのグラフを印刷します。
3	オフライン作業(W)	オンライン/オフラインを切り替えます。オフライン状態ではチェックマークを左側に表示します。
4	終了(X)	アプリケーションを終了します。

### 3.4.2 編集(E)

編集(E)メニューには、次の図表のような項目があります。リストの編集については 4.9 「リストの共通操作」を参照してください。

プロパティ設定(P)	Enter
追加(I)	Ctrl+Plus
削除(R)	Ctrl+Minus
選択(S)	Space
選択クリア(C)	ESC
1つ上に移動(U)	Ctrl+Up
1つ下に移動(D)	Ctrl+Down
前頁(P)	Ctrl+Left
次頁(N)	Ctrl+Right
グループに追加(G)	Ctrl+G

編集(E)メニュー

No.	メニュー	内容
1	プロパティ設定(P)	各設定画面で編集ダイアログボックスを表示します。
2	追加(I)	最後尾にリストを追加します。
3	削除(R)	セレクトカーソルのあるリストを削除します。
4	選択(S)	セレクトカーソルのあるリストをアクティブリストにします。
5	選択クリア(C)	アクティブリストをクリアします。
6	1つ上に移動(U)	選択中のリストの位置を1行上に移動します。
7	1つ下に移動(D)	選択中のリストの位置を1行下に移動します。
8	前項(P)	次のページのリストを表示します。
9	次項(N)	前のページのリストを表示します。
10	グループに追加(G)	セレクトカーソルのあるリストをグループ化します。

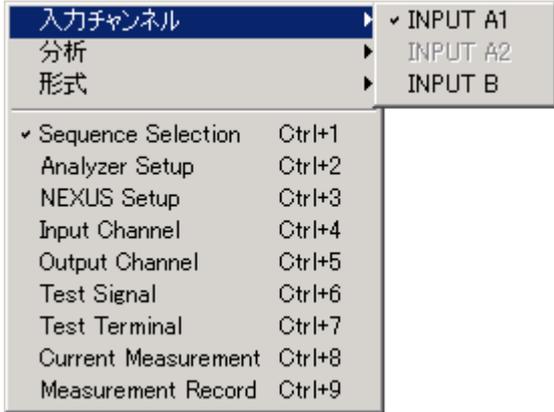
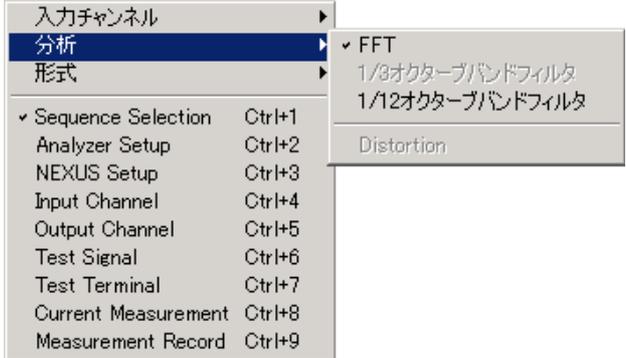
編集(E)メニューの内容

### 3.4.3 表示(V)

表示(V)メニューには、次の図表のような項目があります。

入力チャンネル	▶
分析	▶
形式	▶
▼ Sequence Selection	Ctrl+1
Analyzer Setup	Ctrl+2
NEXUS Setup	Ctrl+3
Input Channel	Ctrl+4
Output Channel	Ctrl+5
Test Signal	Ctrl+6
Test Terminal	Ctrl+7
Current Measurement	Ctrl+8
Measurement Record	Ctrl+9

表示(V)メニュー

No.	メニュー	内容
1	入力チャンネル	<p>グラフ画面に表示する内容をInput A1・A2・Bから選択します。表示中の入力チャンネルにはチェックマークが表示されます。</p> 
2	分析	<p>1/3oct・1/12oct・FFT・Distortionの分析画面の切り替えを行います。表示中の分析器にはチェックマークが表示されます。</p> 

表示(V)メニューの内容

No.	メニュー	内容
3	形式	<p>Measurement Record画面でのグラフ/リストの表示の切り替えを行います。表示中の形式にはチェックマークが表示されます。</p> 
4	Sequence Selection	<Sequence Selection> リストを表示します。
5	Analyzer Setup	<Analyzer Setup> リストを表示します。
6	NEXUS Setup	<NEXUS Setup> リストを表示します。
7	Input Channel	<Input Channel> リストを表示します。
8	Output Channel	<Output Channel> リストを表示します。
9	Test Signal	<Test Signal> リストを表示します。
10	Test Terminal	<Test Terminal> リストを表示します。
11	Current Measurement	<Current Measurement>測定画面を表示します。
12	Measurement Record	<Measurement Record>のリストまたは測定画面を表示します。

表示(V)メニューの内容

### 3.4.4 シーケンス(S)

シーケンス(S)メニューには、次の図表のような項目があります。

✓ 1. Sending Loudness Rating
2. Receiving Loudness Rating
3. Sending Sensitivity/frequency characteristics
4. Receiving Sensitivity/frequency characteristics
5. Sending Distortion
6. Receiving Distortion
7. Ambient Noise Rejection(Noise Sensitivity)
8. Ambient Noise Rejection(Sending Sensitivity)
9. Acoustic Echo Control
10. Sending Idle Channel Noise
11. Receiving Idle Channel Noise
12. Sidetone characteristics
13. Stability Loss

シーケンス(S)メニュー

No.	メニュー	内容
1	Sending Loudness Rating	送話ラウドネスレイト測定にシーケンスを切り替えます。
2	Receiving Loudness Rating	受話ラウドネスレイト測定にシーケンスを切り替えます。
3	Sending Sensitivity/frequency characteristics	送話感度周波数特性測定にシーケンスを切り替えます。
4	Receiving Sensitivity/frequency characteristics	受話感度周波数特性測定にシーケンスを切り替えます。
5	Sending Distortion	送話歪測定にシーケンスを切り替えます。
6	Receiving Distortion	受話歪測定にシーケンスを切り替えます。
7	Ambient Noise Rejection (Noise Sensitivity)	騒音除去性能(雑音感度)測定にシーケンスを切り替えます。
8	Ambient Noise Rejection (Sending Sensitivity)	騒音除去性能(送話感度)測定にシーケンスを切り替えます。
9	Acoustic Echo Control	音響エコー測定にシーケンスを切り替えます。
10	Sending Idle Channel Noise	送話雑音測定にシーケンスを切り替えます。
11	Receiving Idle Channel Noise	受話雑音測定にシーケンスを切り替えます。
12	Sidetone characteristics	側音特性測定にシーケンスを切り替えます。
13	Stability Loss	鳴音測定にシーケンスを切り替えます。

シーケンス(S)メニューの内容

### 3.4.5 測定(M)

測定(M)メニューには、次の図表のような項目があります。

マイクキャリブレーション	F3
試験信号レベルの調整	F4
開始(S)	F5
停止(E)	F6
記録(R)	F7

測定(M)メニュー

No.	メニュー	内容
1	マイクキャリブレーション F3	マイクキャリブレーションを実行します。
2	試験信号レベルの調整 F4	試験信号レベルの調整をします。
3	開始 F5	測定を開始します。
4	停止 F6	測定を停止します。
5	記録 F7	測定データを記録します。

測定(M)メニューの内容

### 3.4.6 試験信号(G)

試験信号(G)メニューには、次の図表のような項目があります。

再生(S)	Ctrl+F5
停止(D)	Ctrl+F6
使用しない	
<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 1. Speech like test signal</li> <li>2. Pink Random Noise</li> <li>3. White Random Noise</li> <li>4. Pseudo Random Noise</li> <li>5. Multi Sine Wave</li> <li>6. Sine Wave</li> </ul>	

試験信号(G)メニュー

No.	メニュー	内容
1	再生	試験信号を再生します。
2	停止	試験信号を停止します。
3	使用しない	試験信号を使用しません。
4	Speech like test signal	会話類似信号に設定します。
5	Pink Random Noise	ピンクノイズに設定します。
6	White Random Noise	ホワイトノイズに設定します。
7	Pseudo Random Noise	擬似雑音に設定します。
8	Multi Sine Wave	マルチサイン波に設定します。
9	Sine Wave	サイン波に設定します。

試験信号(G)メニューの内容

### 3.4.7 オプション(O)

オプション(O)メニューには、次の図表のような項目があります。

通信接続の設定(C)
測定器(ESPT)の設定(E)

オプション(O)メニュー

No.	メニュー	内容
1	通信接続の設定(C)	接続する測定器のIPアドレスを設定します。アプリケーションはここで設定されたIPアドレスの測定器に接続します。
2	測定器(ESPT)の設定(E)	測定器のIPアドレスとポート番号をRS-232C経由で設定します。

オプション(O)メニューの内容

### 3.4.8 ヘルプ(H)

ヘルプ(H)メニューには、次の図表のような項目があります。

目次(C) F1
バージョン情報(A)

ヘルプ(H)メニュー

No.	メニュー	内容
1	目次(C) F1	PDFファイル形式の取扱説明書を開きます。
2	バージョン情報(A)	アプリケーションのバージョン情報を表示します。

ヘルプ(H)メニューの内容

### 3.5 モードバー

現在測定対象となっている主な内容 (試験項目のシーケンス名、試験端末のタイプ、試験信号名など)を表示します。モードバーは下図のように、<Sequence>、<Terminal Type>、<Test Signal>の3つの表示部で構成されます。



モードバーの表示例

それぞれの表示欄は、<Sequence>、<Test Terminal>、<Test Signal>リストの設定・選択内容と連動して表示が切り替わるようになっています。さらに、<Sequence>および<Test Signal>表示欄には、シーケンス設定の状態、試験信号の出力状態をインジケータとして表示します。

Test Terminal				
No.	Serial No.	Type	Narrow/Wide	Notes
1	3GPP-A	Handset	Wide-band	
2	3GPP-B	Headset	Wide-band	
3	3GPP-C	Desk-top Hands-free	Wide-band	
4	3GPP-D	Handheld Hands-free	Wide-band	

Test Signal			
No.	Name	Frequency [Hz]	Notes
1	Speech like test signal	---	会話類似信号 (Pink Noise 250ms-ON, 150ms-OFF)
2	Pink Random Noise	---	ピンクノイズ
3	White Random Noise	---	ホワイトノイズ
4	Pseudo Random Noise	---	擬似雑音
5	Multi Sine Wave	---	マルチサイン波 (250Hz~2.5kHz, 1/3oct.間隔)
6	Sine Wave	1025	サイン波

Sequence Selection		
No.	Name	Notes
1	Sending Loudness Rating	送話ラウドネスレイト
2	Receiving Loudness Rating	受話ラウドネスレイト
3	Sending Sensitivity/frequency characteristics	送話感度周波数特性
4	Receiving Sensitivity/frequency characteristics	受話感度周波数特性
5	Sending Distortion	送話歪
6	Receiving Distortion	受話歪
7	Ambient Noise Rejection/Noise Sensitivity	騒音除去性能(雑音感度)
8	Ambient Noise Rejection/Sending Sensitivity	騒音除去性能(送話感度)
9	Acoustic Echo Control	音響エコー
10	Sending Idle Channel Noise	送話雑音
11	Receiving Idle Channel Noise	受話雑音
12	Sidetone characteristics	側音特性
13	Stability Loss	鳴音

<Sequence Selection>、<Test Signal>、<Test Terminal>リストの表示例

以下に、モードバーの各部の機能と表示について記します。

### 3.5.1 <Sequence>

現在選択されているシーケンス名称を表示する試験項目表示欄です。<Sequence>表示欄は、試験項目名を表示するほかに、選択されているシーケンスの「試験信号自動レベル調整」状態と「両耳測定」状態を示すインジケータがあります。



試験信号自動レベル調整は、以下のシーケンス、

- ❖ Sending Distortion」
- ❖ Receiving Distortion」
- ❖ Ambient Noise Rejection/Noise Sensitivity」
- ❖ Ambient Noise Rejection/Sending Sensitivity」

もしくは、両耳測定状態時の、

- ❖ Receiving Loudness Rating」
- ❖ Receiving Sensitivity/frequency characteristics」
- ❖ Receiving Distortion」

で有効になり赤色で **Auto Calib.** と表示されます。試験信号自動レベル調整が無効の場合淡色表示されます。試験信号自動レベル調整インジケータが点灯している場合、測定前の試験信号レベル調整の操作を行う必要はありません。



解説

試験信号自動レベル調整インジケータが点灯している場合、測定開始前に試験信号のレベル調整を行う必要はありません。

両耳測定はHATSの両耳を使用して測定を行うことを指しています。この状態になっている場合、橙色で **Ear x 2** と表示されます。両耳測定のセットアップは測定系の出力点が「from ERP(L)」 「from ERP(R)」 の入力チャンネル同士をグループ化する必要があります。両耳測定のセットアップ方法については「Input Channelのグループ化」の頁を参照して下さい。



解説

両耳測定インジケータが点灯している場合、必ず試験信号自動レベル調整インジケータが点灯しますので、測定開始前に試験信号のレベル調整を行う必要はありません。



解説

両耳測定のセットアップ方法については「Input Channelのグループ化」の頁を参照して下さい。

### 3.5.2 <Terminal Type>

現在のシーケンスが対象としている試験端末のタイプを表示する試験端末タイプ表示欄です。<Terminal Type>に表示される内容は、<Test Terminal>リストで選択されている試験端末のタイプに該当します。

試験端末のタイプ

Test Terminal					
No.	Serial No.	Type	Narrow/Wide	Notes	
1	3GPP-A	Handset	Wide-band		
2	3GPP-B	Headset	Wide-band		
3	3GPP-C	Desk-top Hands-free	Wide-band		
4	3GPP-D	Handheld Hands-free	Wide-band		

<Test Terminal>の表示例

下図は、上図の<Test Terminal>リストでそれぞれ（ ~ ）の試験端末タイプが選択されている場合の<Terminal Type>の表示例です。

Terminal Type  
**Handset**

Handsetタイプの試験端末選択時

Terminal Type  
**Headset**

Headsetタイプの試験端末選択時

Terminal Type  
**Desk-top Hands-free**

Desk-top Hands-freeタイプの試験端末選択時

Terminal Type  
**Handheld Hands-free**

Handheld Hands-freeタイプの試験端末選択時

<Test Terminal>リストの<Type>、<Narrow/Wide>設定の選択は、送受話周波数特性のマスクグラフの形状および規格計算値の上下限值の内容に自動的に反映されるようになっています。このうち、<Terminal Type>表示欄は、分析画面に表示されているマスクグラフの形状がどの端末タイプのもか容易に確認できるようになります。



解説

両耳測定のセットアップ方法については「Input Channelのグループ化」の頁を参照して下さい。

### 3.5.3 <Test Signal>

現在のシーケンスが使用している試験信号の種類を表示する試験信号表示欄です。<Test Signal>表示欄に表示される内容は、<Test Signal>リストで選択されている試験信号名に該当します。

Test Signal			
No.	Name	Frequency [Hz]	Notes
1	Speech like test signal	---	会話類似信号 (Pink Noise 250ms-ON, 150ms-OFF)
2	Pink Random Noise	---	ピンクノイズ
3	White Random Noise	---	ホワイトノイズ
4	Pseudo Random Noise	---	擬似雑音
5	Multi Sine Wave	---	マルチサイン波 (250Hz~2.5kHz, 1/3oct.間隔)
6	Sine Wave	1025	サイン波

<Test Signal>リストの表示例

下図は、上図の<Test Signal>リストでそれぞれ( ~ )の試験信号が選択されている場合の<Test Signal>表示欄の表示例です。Sine Wave 信号が選択されている場合は、再生する正弦波の周波数も一緒に表示されます。



サイン波選択時 (再生する周波数も一緒に表示)

<Test Signal>表示欄は再生する試験信号名を表示するほかにSignal インジケータの表示を表示します。試験信号再生中はSignalインジケータは点滅表示します。試験信号が再生されていない場合は淡色表示します。



### 3.6 左サイドバー

左サイドバー (右図)は、メインビューの表示内容を切り替えるための左サイドバーボタンを表示します。左サイドバーに表示されるボタンをクリックすると、該当する内容がメインビューに表示されます。下表は、左サイドバーボタンの機能概要です。

左サイドバーボタン	内容
 Sequence	<Sequence Selection>リストを表示します。
 Analyzer	<Analyzer Setup>リストを表示します。
 NEXUS	<NEXUS Setup>リストを表示します。
 Input	<Input Channel>リストを表示します。
 Output	<Output Channel>リストを表示します。
 Signal	<Test Signal>リストを表示します。
 Terminal	<Test Terminal>リストを表示します。
 Meas.	<Current Measurement>分析画面を表示します。
 Record	<Measurement Record>リストおよび分析結果画面を表示します。



左サイドバー

左サイドバーボタンの機能概要

メインビューの表示内容を切り替えるには、次の操作で行います。



該当する左サイドバーボタンをクリックします。

該当する左サイドバーボタンをクリックすると、メインビューにその内容が表示されます。メインビューの表示切替は<表示>メニューから行うことができます。メインビューの表示内容に該当する各左サイドバーボタンのLED表示は点灯状態でまた、該当しないLED表示は淡色表示します。



解説

本書では、左サイドバーに表示されるボタンを総称して「左サイドバーボタン」と表記します。

### 3.7 右サイドバー

右サイドバー(右図)は、グラフ表示画面に表示する内容を切り替える入力チャンネルボタン、分析ボタン、出力チャンネル状態を表すインジケータを表示します。右サイドバーに表示されるボタンは、入力選択ボタン、グラフ選択ボタンの2種類に大別されます。下表は、左サイドバーボタンの機能概要です。

左サイドバーボタン	内容	
入力チャンネルボタン	<Input A1> 	入力AのCh.1を選択します。現在のシーケンスがこの入力を対象としていない場合は非活性状態となり選択できません。
	<Input A2> 	入力AのCh.2を選択します。現在のシーケンスがこの入力を対象としていない場合は非活性状態となり選択できません。
	<Input B> 	入力Bを選択します。現在のシーケンスがこの入力を対象としていない場合は非活性状態となり選択できません。
分析ボタン	<FFT> 	FFT表示に移行します。
	<1/3oct> 	1/3octバント表示に移行します。現在のシーケンスがこれを対象としていない場合は非活性状態となり選択できません。
	<1/12oct> 	1/12octバント表示に移行します。現在のシーケンスがこれを対象としていない場合は非活性状態となり選択できません。
	<Distortion> 	Distortionグラフ表示に移行します。現在のシーケンスがDistortion以外の場合は非活性状態となり選択できません。
出力チャンネルインジケータ	<Output A> 	ON状態の表示の場合、現在のシーケンスがOutput Aを出力対象としていることを意味します。 OFF状態の場合は対象としていないことを意味します。
	<Output B> 	ON状態の表示の場合、現在のシーケンスがOutput Aを出力対象としていることを意味します。 OFF状態の場合は対象としていないことを意味します。



右サイドバー

右サイドバーボタンの機能概要

入力チャンネルごとの内容および分析ごとの内容をメインビューの分析画面に表示するには、次の操作で行います。



該当する入力チャンネルボタンをクリックします。



該当する分析ボタンをクリックします。

該当する右サイドバーボタンをクリックすると、メインビューの分析画面の内容が更新されます。入力チャンネル、分析内容の表示切替は<表示>メニューからも行うことができます。メインビューの表示内容に該当する各右サイドバーボタンのLED表示は点灯状態でまた、該当しないLED表示は淡色表示します。

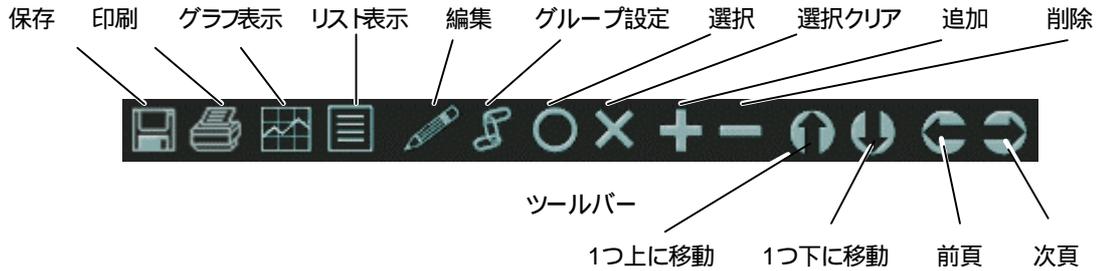


解説

本書では、右サイドバーに表示されるボタンを総称して「右サイドバーボタン」と表記します。

### 3.8 ツールバー

ツールバーは、よく使用される操作をマウスクリックひとつで行えるようにしたショートカットボタンを表示します。下図は、ツールバーボタンの各部の名称です。



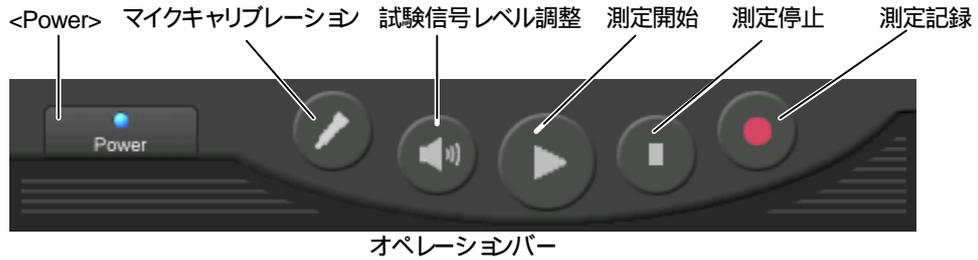
ツールボタンの機能の概要は、下表のようになっています。

ツールバーボタン	内容
保存ボタン 	記録された測定データをCSV形式でファイルに出力します。
印刷ボタン 	記録された測定データのグラフを印刷します。
グラフ表示ボタン 	記録された測定の選択リストをグラフ表示します。
リスト表示ボタン 	記録された測定のグラフ表示を止め、<Measurement Record>画面を表示します。
編集ボタン 	メインビューに表示されている内容を編集します。
グループ設定ボタン 	<Input Channel>および<Output Channel>の選択リストをグループ化します。
選択ボタン 	リストで選択されている設定行を現在のシーケンスの設定としてアクティブにします。
選択クリアボタン 	リストで選択されているアクティブ行を全てクリアします。
追加ボタン 	リストに設定項目 (行) を1つ新規に追加します。
削除ボタン 	リストで選択されている設定項目 (行) を削除します。
1つ上に移動ボタン 	リストで選択されている設定項目(行)の表示位置を1つ上に移動します。
1つ下に移動ボタン 	リストで選択されている設定項目 (行) の表示位置を1つ下に移動します。
前頁ボタン 	メインビューに設定リストの内容が表示しきれていない場合に、表示内容を1ページ前の内容で更新します。
次頁ボタン 	メインビューに設定リストの内容が表示しきれていない場合に、表示内容を1ページ後の内容で更新します。

ツールバーボタンの機能概要

### 3.9 オペレーションバー

オペレーションバーは、測定操作に関わる一連のショートカットボタンおよび通信接続・切断をおこなうボタンを表示します。



下表は、オペレーションバーボタンの機能概要です。

オペレーションボタン	内容
<Power>ボタン 	測定器との接続を確立し、測定可能な状態にします。通信接続中はLEDが点灯状態で表示、切断中は消灯状態で表示します。
マイクキャリブレーションボタン 	マイクキャリブレーションを行います。マイクキャリブレーションボタンをクリックすると、<マイクキャリブレーション>ダイアログボックスを表示します。
試験信号レベル調整ボタン 	試験信号レベルの自動調整を行います。試験信号レベル調整ボタンをクリックすると、<試験信号のレベル調整>ダイアログボックスを表示します。
測定開始ボタン 	測定を開始します。
測定停止ボタン 	測定動作を中断し、試験信号の再生を停止します。
測定記録ボタン 	<Current Measurement>での分析結果を、<Measurement Record>リストに記録します。記録した分析結果は、後で分析画面を参照したりCSV形式のファイル出力、印刷等が行えるようになります。

オペレーションバーボタンの機能概要



解説

<Power>ボタンは測定器との通信接続・切断を行うためのものです。測定器の電源を切り切る機能はありません。



解説

通信エラーが発生した場合、<Power>ボタンのLEDは自動的に消灯表示されます。

## 3.10 インフォメーションバー

インフォメーションバーは、通信状態、測定時間、現在の日時を表示します。



下表は、インフォメーションバーの各表示欄における概要です。

表示欄	内容
<Status>	現在のステータスを表示する状態表示欄です。
<Meas. Time>	測定を開始してからの時間を表示する測定時間の表示欄です。
<Date/Time>	現在の日付と時刻を表示します。

インフォメーションバーの表示内容

### 3.10.1 通信状態の表示

通信状態の表示はインフォメーションバーの<Status>欄に表示されます。<Status>欄に表示される通信状態は、下表のようなものがあります。

通信状態	内容
<b>Ready...</b>	通信接続 切断状態時のアイドル状態時に点灯表示します。
<b>Connect...</b>	通信接続処理中に点滅表示します。
<b>Disconnect...</b>	通信切断処理中に点滅表示します。
<b>Measuring...</b>	測定中に点滅表示します。
<b>Completed</b>	測定完了時に一時的に点灯表示します。一定時間経過後、'Ready...'表示に切り替ります。
<b>Comm. Error</b>	通信エラー発生時に点滅表示します。



解説

通信接続されている間、MTA-01WBIは測定器との接続確認を常に監視しています。この状態で測定器の電源を切るなどした場合、通信エラーが発生します。

### 3.11 ステータスバー

ステータスバーは、マウスカーソル下にある部位についての簡易な説明文を表示します。下図は、測定開始ボタン上にマウスカーソルを移動した時のステータスバーの表示例です。



ステータスバーの表示例

マウスカーソル下にある表示部位に特に説明する内容が無い場合は「Ready...」と表示します。